

令和4年12月22日

第3回学校運営協議会を開催しました

12月8日（木）、令和4年度の第3回学校運営協議会を開催しました。

学校運営協議会の出席者

三野谷地区区長会長、体協三野谷支部長、民生児童委員代表、主任児童委員代表、三野谷公民館長、認定こども園MINOYA園長七小校長、七小教頭、七小教務主任、CSディレクター、館林市教育委員会学校教育課指導係長・指導主事

学校運営協議会委員は、第5校時の授業の様子を参観してから、熟議を行いました。



熟議のテーマ 「地域人材の確保・育成について」

第七小学校で、今後取り組んでいかなければならない課題として、「学校や児童に関わる地域人材の確保・育成」ということがあります。

- 学校を支援している組織・団体のメンバーや地域住民の高齢化
- 活動を引き継ぐ次の世代の人材不足
- コロナ禍による学校や地域の行事の中止や縮小といった状況が続き、
- 指導者やボランティアの減少
- 学校に関わる保護者や地域住民の減少
- 伝承される知識や技術の風化
- 児童や地域住民が参加できる特色ある行事・活動の消滅という問題が起こっています。そこで、
- ◇地域人材の確保・育成
- ◇次の世代への確実な引き継ぎ
- ◇学校や地域の活性化のためにできることを考えていく必要があります。



熟議での主な意見

- 地域人材の育成・確保に関しては、親世代をどうやって巻き込んでいくかということが課題。公民館が中心となってやっている世代間交流で、小学生とお爺ちゃんお婆ちゃんの交流に親世代がうまく関わられるようになるといい。三世代でできる工夫が必要。
- 親世代を巻き込むには、キャリア教育の授業に親世代をゲストティーチャーと呼ぶなど、七小を核とした交流ができるといい。
- 若手の育成については、年齢に関係なく参加できる楽しい行事をやるようにするといい。一番の交流の場は「運動会」になる。地域の核となる「運動会」を七小を中心として、公民館が関わりながらやっていけるといい。来年は是非「地区運動会」を実施できるようにしたい。
- 上三林地区の「ささら」が地域の活性化を担っている。他の地域の子どもたちも参加できるようにして、その子どもたちが指導者になり、三野谷地区全体に広げていってくれるといい。
- 学校と地域が一緒にやる「防災訓練」や、小・中学生と大人でやる「地域ウォークラリー」などのイベントを行って、人を集めるようにしていけるといい。
- 交流の場、集まる場、コミュニケーションの場としては、公民館・学校が核になって、各団体関係者が集まって活動を続けていけるといい。